

平成25年度 村上市国語部 活動報告

部長 渡邊 治樹

1 研究主題

子どもの意欲を引き出す指導の在り方

2 研究の概要

昨年度に引き続き、子どもの意欲を引き出すために「単元を貫く言語活動」を確実に位置付け、言語活動を充実させることを中心に研究に取り組んだ。

研究では、「単元を貫く言語活動」について実践を重ねている新潟市の市小研国語部の星山薫先生（新潟市立木崎小学校）をお招きし、指導を受けた。その際、新潟市市小研国語部の取組も紹介していただき、本地区の教員への「単元を貫く言語活動」についての理解を深めることができた。

3 研究の実際

(1) 日時 平成25年12月

(2) 会場 村上市立村上南小学校

(3) 学年 第6学年

(4) 単元名（教材名） 作品の世界を深く味わおう（「やまなし」）

(5) 単元の概要（全12時間）

単元では、終末に「宮沢賢治のポップ作り」を設定し、それに向けて学習を進めた。また単元や本時には、以下のような意欲を引き出す手立てを取り入れ、学習を進めた。



授業の様子

手立て1：ポップの役割を考えさせ、ポップを作るという目標をもたせる。

手立て2：センテンスカードを使い、心情変化を読み取らせる。

手立て3：ワークシートを工夫し、心情変化をまとめさせる。

(6) 協議された内容

① 手立て1について

単元終了後の児童アンケートでは、「ポップ作りが楽しかった」と肯定的に答えた児童は、72%（29人中21人）であった。協議会では、大きなゴール（ポップ作り）とそこに至るまでの小さなゴール（各時間のめあて）を掲示し、児童がどこに向かい、そのために今、何をしているのかを明確にするような手立てが必要であるという意見が出た。

② 手立て2について

色分けされたセンテンスカードの並べ替えを行うことで視覚的に理解させたり焦点化させたりするのに有効であった。しかし、児童が「ここにこう書いてあるから～と思う。」と本文に立ち返る姿が見られなかった。本文を読む取る活動を取り入れる必要であるという意見が出た。

③ 手立て3について

児童アンケートで主題を考えることができた児童は66%（29人中19人）だった。手立て2の心情の変化の部分を丁寧に指導すれば様々な考えを書くことができたのではという意見が出た。

4 成果と課題

(1) 成果

- ・「ポップ作り」を単元を貫く言語活動に位置づけることは有効であった。
- ・センテンスカードを使い、着目させる部分を視覚化・焦点化させることは中心人物の心情変化を捉えさせるためのきっかけとなった。

(2) 課題

- ・センテンスカードを手がかりに本文へ戻り、根拠を問うことが必要である。
- ・身に付けさせたい力と単元を貫く言語活動の関連付けの再考が必要である。